

# 平成25年度過疎地域等自立活性化推進交付金 過疎地域等自立活性化推進事業概要一覧



総務省地域力創造グループ  
過疎対策室

# 過疎地域等自立活性化推進交付金の活用事例(平成25年度)

## ○産業の振興(スモールビジネス振興)

- 群馬県嬭恋村:ジオパークと愛妻のブランド化によるむらづくり ……1
- 京都府南丹市:美山「淡水魚の郷」づくり～ブランド戦略 高級淡水魚「ホンモロコ」で産業振興～ ……2
- 長崎県五島市:「久賀島の文化的景観」を活かした暮らせる島づくり推進事業 ……3

## ○生活の安心・安全確保対策

- 岐阜県揖斐川町:公共交通ニューディール政策事業～生活交通のベストミックス～ ……4

## ○集落の維持・活性化対策

- 山形県飯豊町:若人の農都交流による地域再生事業 ……5
- 長野県筑北村:官民融合型集落活性化拠点「里の駅」デザインプロジェクト ……6
- 高知県土佐清水市:下川口地区 老・朗 支え合い事業 ……7
- 熊本県上天草市:域・学連携による「談合島」観光振興実証実験 ……8

## ○移住・交流・若者の定住促進対策

- 島根県海士町:離島発 教育産業創出事業 ……9

## ○地域文化伝承対策

- 北海道平取町:地域文化資源活用交流産業推進事業 ……10
- 岩手県軽米町:軽米農家レストラン「南部の食文化伝承・創作」プロジェクト事業 ……11
- 富山県南砺市:「越中の小京都」に受け継がれる城端織物の海外展開・創出事業 ……12
- 徳島県那賀町:農村舞台アートプロジェクト ……13

## ○環境貢献施策の推進

- 北海道標津町:循環型環境システム構築実証事業 ……14

# ジオパークと愛妻のブランド化によるむらづくり

## 概要

- ジオパーク基本構想の策定のための委託事業、推進協議会の組織化
- 村名を活用し各団体が一体となって総合的なブランド開発のための委託事業
- 高齢者の外出支援のためのタクシー利用助成、健康増進のための温泉入浴助成事業

## 事業の内容

### 事業の内容

- 推進協議会を発足し、地域住民がジオパーク認定のため推進活動を実施
- 愛妻ブランド化のための住民の手による商品開発を実施
- タクシー利用助成・温泉入浴助成を行ない、高齢者外出支援実証実験を実施

### 総事業費

12.4百万円

### ポイント

- 住民による推進活動
- 各種団体一体となってブランド品の研究開発
- 利用者(高齢者)の要望を分析

## 事業の成果

- 推進協議会の設立。
- 商品化のためのネタ帳完成。今後ネタ帳も基に商品開発に取り組む。
- 高齢者の外出実績・アンケート調査により、効率のよい交通弱者対策を行なう。  
高齢者の温泉利用実績・アンケート調査により、年齢・介護度等を分析。

## 群馬県嬭恋村



ジオパーク推進協議会  
設立記念シンポジウム



愛妻住民ワークショップ



温泉利用

# 美山「淡水魚の郷」づくり事業～ブランド戦略 高級淡水魚「ホンモロコ」で産業振興～

## 概要

京都府南丹市美山地域は、京都府のほぼ中央に位置し、芦生原生林を源とする日本海へ流れる由良川沿いに点在する中山間地域であり、緑豊かな自然に恵まれた地域の、通称美山川において特産品として定着している鮎・あまごに加え高級淡水魚「ホンモロコ」を活用し産業振興を図る。

## 事業の内容

### 事業の内容

水環境に恵まれた美山地域の中山間で、遊休農地や耕作放棄地を活用したホンモロコの養殖を通じて、地域住民と美山漁業協同組合とがタイアップすることにより生産の拡大と加工・販売及びブランド化を進め新たな特産品としての開発を行う。

### 総事業費

10百万円

### ポイント

美山産ホンモロコの特徴として、山沿いの遊休農地や耕作放棄地を利用した養殖池であるため、年間を通じて給水が可能で、水質もよく農薬被害の影響もない安心・安全な高級食材といえる。

## 事業の成果

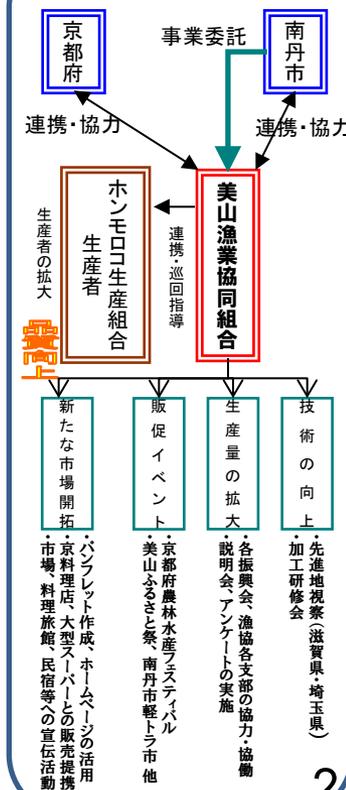
美山漁業協同組合は、以前から鮎やあまごの養殖と加工販売を行っているが、将来を見据えた新しい特産品として、ホンモロコの養殖を進めていた。しかしながら拠点となる設備がなく量産にはいたらなかったところ、本事業に取り組むことにより設備が整えられ、特産品としての開発、生産量の増量が図れることとなった。

今後については、生産者の拡大・増産及びブランド品としての定着と販路拡大を進め、遊休農地や耕作放棄地の有効活用を図る。

## 京都府南丹市



## ホンモロコによるブランド戦略



# 「久賀島の文化的景観」を活かした暮らせる島づくり推進事業

## 概要

久賀島は平成23年度に島全域の景観が重要文化的景観に選定された。この価値を守るためには、**島民が島でこれまでの暮らしを続けていく**必要があるが、深刻な過疎化が進む久賀島では、「島民が暮らし続ける」ことが困難な状況である。そこで、島の文化的景観を創り出す様々な要素を活かし、島民が島で暮らし続けることができる仕組みを構築する事業である。

## 事業の内容

### 事業の内容

- A. 島外の若者(大学生)の視点から、島の地域資源を抽出し、その活用方法を検討するイベントの実施。
- B. 観光とボランティアを組み合わせた「ボランティアツーリズム」の実現性を検証するモニターツアーの実施。
- C. 地域資源発掘イベントの成果等から、久賀島で取り組んでいきたい事業を検討し、その先進地を視察。これに合わせ、島民の地域づくりに対する意識の醸成を目的とし、各地で地域づくりに取り組む方々と島民が交流を図る機会を創出。
- D. 地域資源を活かした島の特産品の開発、商品化と島民主体の事業運営組織の設立。

### 総事業費

1. 1百万円

### ポイント

文化的景観の保全→島民のこれまでの暮らしの持続→現在の生業を活かした新たな収入を得る方法の検討 **「文化的景観保全の切り口からの地域振興の実現」**

## 事業の成果

- ・体験型観光の受入がある程度整い、ボランティアツーリズムの実施も可能となった。
- ・各事業の運営母体となる住民組織「久賀島ファーム」の設立。
- ・特産品の商品化(椿油、棚田米)。



商品化した椿油と棚田米



HISAKAJIMA  
FARM

久賀島ファームのロゴ

## 長崎県五島市



事業A



事業B



事業C



事業D

# 公共交通ニューディール政策事業～生活交通のベストミックス～

## 概要

山間地域では高齢化率50%を超える揖斐川町にとって、住民の移動手段として重要な役割を担うコミュニティバスの確保・維持が課題である。

そこで、住民のニーズを把握するとともに持続可能なサービスへの抜本的な改革を図るため、複数の運行形態の実証実験を行い、それらをミックスした運行形態の実現可能性を検証した。

## 岐阜県揖斐川町

### 【実証実験バス運行状況】



【住民との意見交換】



【実証実験案内チラシ】



## 事業の内容

### 事業の内容

- 住民(全世帯)アンケートやバス利用者ヒアリング等による住民意向の把握
- 運行方法が異なる2種類の実証実験の実施(電話予約型・定時定路線【福祉バス】型)
- 実証実験バス利用者へのヒアリングや住民ワークショップによる効果・影響の検証
- 町全体の公共交通ビジョン及び具体的な路線再編の検討

### 総事業費

10.1百万円

### ポイント

乗降調査4日分・アンケート2種類・ヒアリング4種類

- 住民アンケートにおいて、直近数年間のコミュニティバスの利用状況や町負担状況等に関するデータを提供し、現状の公共交通に対する**コスト意識・存続意識の醸成**
- 複数の地域を選定し、**地域の特色に応じた運行形態**による実証実験の実施・検証

## 事業の成果

- 各種アンケートによる、住民の外出行動・バスの改善要望・利用意向の把握
- 利用者ヒアリングによる、路線別・便別の詳細な利用状況(目的、バス停間OD)の把握
- デマンド型交通の試験導入により、予約のある区間・便だけを効率的に運行できるメリットの確認とともに、予約に関する利用者の負担・抵抗もそれほど大きくないことを実感
- 新規で乗り入れた集落における、**新たな需要の発掘と利用者の満足度の向上**が確認でき、同時に運行経費を**現在比約40%削減**という効率的な輸送が実現可能であることを実証できた。
- 運行形態の組み合わせによる**住民参加型ワンオフバスネットワーク**の素案を構築

# 若人の農都交流による地域再生事業

## 概要

当町は、過疎化が進み高齢化率も31.1%、限界集落が存在し集落の消滅が危惧されている現状である。第一次産業を生業とし地域資源を活かした、共生し自立するまちづくりを進めている。産業と賑わいの再生を求めH24年度から農都交流事業を推進し、都市型企业や大学などとの交流からそれぞれの地域や組織が抱える課題解決に向け協働の取り組みを行おうと提唱し、企業の人材研修などに農村の社会や文化、農作業体験を提供してきた。

都市型企业等の人材育成の地として、農山村地域を活かすことができる活動の基礎を固め、受け入れのための体制強化と地域内での二次交通の確保、人をつなぐための仕組みづくりに加え、全町で交流が進められるよう事業を展開した。

## 山形県飯豊町



首都圏の拠点



在日外国人も参加



里山に若人

## 事業の内容

### 事業の内容

- ①農都交流推進研究会を設立し、人材の育成と交流拡大のためのシステムの検討を行った。
- ②交流拡大の基盤整備として、二次交通の確保検討、プログラム開発、交流拡大のためのモニターツアーの実施。
- ③情報発信のために報告会などの開催と研修などの開催。

総事業費 10.204百万円

### ポイント

- 人材の育成とシステムの構築検討、活動の拠点づくりとして都内の高円寺商店街との連携から拠点づくりを進めた。
- 交流拡大のため、二次交通対策として既存のデマンド交通を含め移動手段の検討を行うと共に、外国人向けのプログラム開発のため在日ブラジル人を対象としたモニターツアーを開催した。
- 若人と農村をつなぐ対策として、「J-CAT(飯豊応援隊の学生)」の活動と連携し、都内での拠点づくり、応援大使証の交付などにより連携の仕組みづくりを行った。

## 事業の成果

- ①農都交流推進研究会を設立し、山形大学をはじめとした関係者との連携から人材の育成の場を構築することができた。
- ②二次交通、地域通貨の試行実証により、体制づくりに向けた礎を得れた。
- ③若人で飯豊町(農山村)を支援するチームを構築することができた。
- ④報告会等により情報を発信することができた。
- ⑤都内の高円寺商店街との連携が構築され、人から物流まで多様な交流が推進される基礎を造れた。
- ⑥企業・大学に加え、在日外国人との交流を進めることができた。
- ⑦国の関係機関により農都交流の推進チームが構築され、連携を図った。

# 官民融合型集落活性化拠点「里の駅」デザインプロジェクト

## 概要

合併後の役場の本庁方式への移行と支所の縮小に伴い懸念される問題と、JA支所の統廃合問題を解決するため、行政、地域住民、JA、商工会、社会福祉協議会等が知恵を出し合い、旧村単位での地域の活性化、地域づくりの拠点としての「里の駅」を作るべく、その整備・活用プランを住民、関係団体等を交えた多様な主体の参画と協働によるプロセスによって協議・検討・デザインする事業である。

## 事業の内容

### 事業の内容

- (1) 住民ニーズ及び地域課題の整理: 住民アンケート調査の実施
- (2) 有識者・関係団体代表者等による推進協議会の開催と住民ワークショップの実施
  - ・推進協議会の実施計5回(座長: 法政大学岡崎教授)
  - ・ワークショップの実実施計7回(全体1回、地域別2回×3地域、延143人参加)
  - ・ワークショップメンバー等による先進地視察の実施(2回)
  - ・「里の駅」だよりの発行による検討情報の村民共有
- (3) 「里の駅」整備プランの作成
  - ・各地域の特性を活かした「里の駅」づくりの基本方針の策定
  - ・「里の駅」整備のデザインスケッチの作成

総事業費 10.5百万円

### ポイント

○今後さらに厳しさを増す人口減少、高齢化社会を見据え、合併した旧村単位でそれぞれの地域の課題や特性を踏まえた「里の駅」づくりを行うことにより、それぞれの地域の活力を生み出し、お互いに「連携し合い」、「補完し合い」、「高め合う」ような村づくりを進めていくことにより村全体の活力を高めようとする取り組みである点

## 事業の成果

- 3つの旧村地域ごとに、「里の駅」の基本方針を住民参画により策定し、次年度以降の整備方向性が明確化  
⇒暮らしの相談窓口、地域活性化の拠点となる交流の場としての機能を明確に位置付け
- 住民が主体的に地域づくりを進めていこうという機運の醸成と主体的な活動組織設立に向けた動きの萌芽  
⇒今後、既存団体との連携や、さらなる住民の巻き込み等による住民主体の里の駅の運営体制構築が課題
- 外部専門家や地域おこし協力隊など「外部の視点」を通じた新たな「気付き」の付与  
⇒村の資源・魅力の再発見、地域おこし協力隊を中心とした「里の駅」や新たな地域づくりの展開への期待

## 長野県筑北村



【ワークショップ風景】



【先進地視察の様子】



【住民報告会の様子】



【里の駅デザインイメージ】

# 下川口地区 老・朗 支え合い事業

## 概要

高齢化率が47.7%を超えた地域においては、自分たちの生活を支え、自分たちのまちを守っていくのは高齢者自身である。元気な高齢者が作った農作物を、元気な高齢者や女性たちが調理し、支えが必要な高齢者に提供する『食』の循環のしくみをつくり、地域の中で朗らかに支え合える地域づくりを目指す。

## 事業の内容

### 事業の内容

#### 高齢者への配食事業

地域の高齢者が栽培した野菜や農家のハネもの野菜を利用して、地域女性グループが調理。独居高齢者、高齢者世帯宅に届けるサービスを実施

#### 直販所への集出荷事業

庭先で野菜を栽培している高齢者宅への巡回集荷から、市街地にある直販所へ配送するサービスを実施

#### 地域ふれあい喫茶事業

地域内の高齢者や子ども、若い親子まで誰でも気軽に集い、コミュニティーの場となる地域ふれあい喫茶事業を実施

### 総事業費

10.0百万円

### ポイント

- ・受け身側だった『高齢者』をまちづくりの主役側に活かしていく。→ 庭先菜園で作った野菜を販売、また配食やふれあい喫茶等にも提供することで、“まだまだ現役”意識をもってもらう。
- ・『女性』パワーを活かす。→ 高齢者のニーズ調査段階から地域の女性たちに関わってもらうことでお互いに顔が見える関係になり、配食事業だけではなく日常の見守り意識、地域で支え合う意識をもってもらう。
- ・NPO法人との共同を活かす。→ 地域内で活動を展開しているNPO法人に関わりを持ってもらうことで、住民側、NPO側もお互いが協力、利用しあえる関係をつくる。

## 事業の成果

- ◆高齢者が趣味で作っている野菜等を販売(小遣いになる)するしくみを作ることで、楽しみ・元気づくりに繋がっている。
- ◆配食事業により、高齢者の低栄養管理が出来るとともに、孤立している高齢者宅へ定期的に訪問配達することで、見守りに繋がっている。
- ◆日頃から地域内で福祉活動をしているNPO法人職員を活用することで、野菜の集配や配食にかかる人的コストの削減が図られ、継続性を持った事業に繋がっている。

## 高知県土佐清水市



配食事業



集出荷事業



## ふれあい喫茶事業



# 域・学連携による「談合島」観光振興実証実験

## 概要

熊本県上天草市湯島地域は、自然、歴史及び農水産物などの豊富な地域資源を有しており、かつては漁業や観光業で栄えていたが、少子・高齢化に端を発し、担い手不足等の問題によって、地域が疲弊している。このような状況を踏まえ、域・学連携による本事業は、観光客の誘致による地域の経済振興(宿泊、物産販売・開発等)を目指すに当たり、島民と大学生等の協働により市場と観光資源の接点を創造する戦略のプランニング等の取組みを実施し、島の観光分野の資源(人・物)を再開発するもの。具体的には、地域資源の再開発に当たって、プランニング、実行、検証に至る一連の行程を大学・事業者と島民が一体となって取組むことで、島民に外部者と連携した事業の実施手法等を学ばせ、スキルアップを図るとともに、経済活性化につながる新商品の開発を行ったもの。この事業の実施を基に、将来は島民自らの積極的な取組みによる地域人材・経済の活性化を図ろうとするもの。

## 事業の内容

### 事業の内容

- 1 湯島のポテンシャル評価調査⇒学生へのアンケート調査、学生グループヒアリング、現地タウンウォッチング、学生による提案づくりワークショップの実施
- 2 景観グランドデザインのための調査⇒景観資源調査、グランドデザイン提案の住民ワークショップの実施
- 3 大学生のキャンプ・合宿の誘致⇒キャンプモニター、音楽サークルの合宿誘致、フェイスブックの開設、文化イベントのあるリゾート提案のワークショップの実施
- 4 夏休み短期留学児童の受入れ⇒海がめの浜で環境学習、絵本作りワークショップ、協同学習のプログラム開発の実施
- 5 コミュニティ・レストラン模擬体験⇒地元素材を使用した料理の開発(弁当、カレー)及びモニターツアーの実施

### 総事業費

10百万円

### ポイント

- ①観光客誘致のターゲットを島外の若者(大学生等)に絞り、大学生の合宿先又は島外の児童の環境学習のフィールドとすることによって、本地域の資源を再開発すること。
- ②島民と島外の学生等との協働による景観づくりを提案すること。
- ③シェフを招聘し、地元素材を使った新しい料理の開発を行ったこと。

## 事業の成果

本事業は、島民と島外の大学生等が連携して事業に取り組んだことから、島内に若者(大学生延べ51名、児童延べ22名)があふれ、一時的であるが、近年にはない活気が戻ったもの。加えて、本事業で開発した料理を使用した「コミュニティ・レストラン」を開設し、島外の者を誘客したことで一定程度の地域の経済振興が図られた。そのため、この取組みを通じて、島民の地域外交流への重要性の理解が進み、意識改革につながった。

また、島民が本事業を契機として、島民自らが島の将来を考え、島民が本事業の経験やノウハウ等をいかした地域の活性化に取り組む素地ができたことで、今後は、持続可能な島民による観光客誘致の企画等が徐々に実施されることが期待でき、将来的に島の定住人口の増加、経済活動の活性化が可能となったもの。

## 熊本県上天草市



熊本県上天草市

### 2 空き家、巨樹調査マップ



### 2 景観グランドデザイン 住民ワークショップの様子



### 3 大学生の合宿誘致 (音楽サークルの誘致)



### 5 レストラン等の事業提 案ワークショップの様子

# 離島発 教育産業創出事業

## 概要

海士町で7年かけて構築・実践してきた「地域の未来を担う人材育成プログラム」を、人づくりが重要課題となっている過疎地域へ提供し、過疎地域の自立・活性化を支援するとともに、海士町における教育産業の創出を目指す。そのために、島前高校における魅力化プロジェクトの取り組み及び海士町の公設民営塾「隠岐國学習センター」の特色あるコンテンツ「夢ゼミ」の体系化を図る。具体的には、島内の教育環境のさらなる魅力化と並行し、ワークショップや視察を通じてこれまでのノウハウを可視化・体系化し、共有可能なものとする。

## 島根県海士町



## 事業の内容

### 事業の内容

1. 教育のブランド化による全国からの生徒募集及び魅力化コーディネーター募集
2. 地域起業家的人材育成プログラム「夢ゼミ」の講師育成とガイドブック作成
3. 海士町の高校魅力化の促進とノウハウの集約、全国への発信

### 総事業費

11.6百万円

### ポイント

【教育産業創出に向けた体制づくりに向けて】

- ・全国へのPRと人材募集 → 知名度向上と高校魅力化の横展開の担い手を育成
- ・夢ゼミと高校魅力化のノウハウ集約 → 次年度以降に向けて横展開可能な事業モデルを構築

## 事業の成果

- 島前高校の島外からの入学者数が約1.4倍に(22名→31名)
- 魅力化コーディネーターを6名採用予定
- 「夢ゼミ」の体系化→夢ゼミ講師を7名育成+ガイドブック完成
- 教育内容の充実→国公立大・難関私大入学者が約4倍に(3名→13名)

# 地域文化資源活用交流産業推進事業

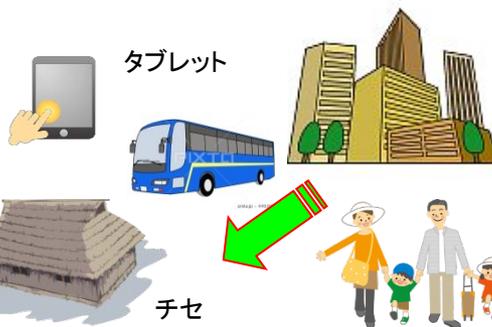
## 概要

平取町は、農林業を基幹産業とし、アイヌの人々が古から集住し、アイヌ文化が色濃く残っているが、伝統的な工芸技術の継承には担い手育成と交流産業推進による工芸品の販売促進が不可欠となっていることから、地域資源の活用による交流人口の増大を図る。

## 事業の内容

### 事業の内容

平取町の特徴と言える二風谷に継承されるアイヌ伝統工芸を中心にホームページやポスター等による情報発信と、地域資源ガイド研修と道央圏と平取をつなぐシャトルバスによるツアーの実証実験を実施。



### 総事業費

11.0百万円

### ポイント

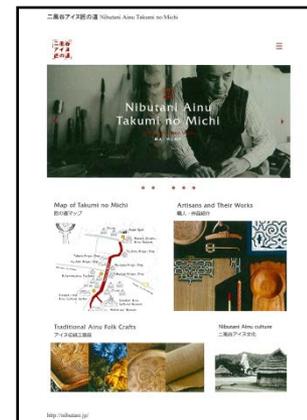
平成25年3月に「二風谷イタ」(木製お盆)「二風谷アットウシ」(樹皮から作った糸の織物)が伝統的工芸品に指定されたことを踏まえて、二風谷の伝統工芸に関するWEBサイト開設と木彫やチセ(伝統的家屋)での昼食などの体験プログラムにより情報発信を行った。

## 事業の成果

関東圏・道央圏都市住民を対象としたシャトルバス運行により延べ373名が平取町を訪れ、伝統工芸の体験などアイヌ文化にふれ、伝統的工芸品の指定を受けたことの認識やアイヌ文化の普及の一助となり、また、伝統工芸を中心にアイヌ文化を紹介するWEBサイト開設により、平取町における交流人口を増大する一つのモデルづくりに着手ができた。今後、より平取らしさを特色とするツアーの開催や交流人口の増大を通じた活性化方策の取り組みが必要。

## 北海道平取町

- 工芸品等PRシステムの開発  
「二風谷アイヌ匠の道」ホームページの作成



- シャトルバスの運行  
「びらとり満喫体感日帰りツアー」

平取町伝統的工芸品指定特選ニターツアー びらとり満喫体感日帰りツアー!!

出発日 2013年 11/2(土) 11/9(土) 11/16(土) 11/23(土) 11/30(土) 12/7(土)

参加人数 30名(乗客・乗務員15名)

ツアー内容

- ① 二風谷アイヌ文化館(アイヌ博物館)の見学
- ② 二風谷アイヌ文化館(アイヌ博物館)の見学
- ③ 二風谷アイヌ文化館(アイヌ博物館)の見学
- ④ 二風谷アイヌ文化館(アイヌ博物館)の見学
- ⑤ 二風谷アイヌ文化館(アイヌ博物館)の見学

料金 4,500円(税別)

※ 二風谷アイヌ文化館(アイヌ博物館)の見学料は別途必要です。

# 軽米農家レストラン「南部の食文化伝承・創作」プロジェクト事業

## 概要

- ・当町は、古くから冷涼な気候に比較的強いアワやヒエなどの雑穀の栽培が盛んに行われ、人々をたびたび飢饉から救ってきた歴史がある。また、この雑穀を使った食文化も数多く残されている。しかしながら、この貴重な食文化も時代が変遷していく中で、技術を継承する担い手不足などから、維持伝承が危惧されているところである。
- ・このため、都市住民が自然、文化に親しみながら、雑穀文化を体験できるよう、設置している雑穀をテーマとしたミレットパークや特産品等販売施設としてミル・みるハウス及び物産交流館等を有効活用するとともに、当町の歴史の中で育まれた食文化を維持伝承し、消費者から土産土法による郷土食、伝統食や新鮮でおいしい農産物に対する要求や関心が高まっている中で、特産品の開発を図り、首都圏等広くPRすることなどにより、雑穀の付加価値化や農林産物の消費拡大を図り、町の活性化を推進するものである。

## 事業の内容

### 事業の内容

- 南部の豊かで多彩な食と食文化の方言の調査並びに現状と課題の点検、伝承調理講習会開催、新南部食創作料理の開発
- 農家レストランの運営、特産品開発、広報宣伝戦略

### 総事業費

11.0百万円

### ポイント

- 多様な雑穀を活用した食文化の良さの見直しや特産の開発など付加価値化による町おこし

## 事業の成果

- 農家レストランの開設により、地域の伝統食、行事食の文化の発信ができた。また、地域の食や食文化に係る調理講習会を町内外から参加者を募集し開催することにより、維持・伝承の効果があつた。
- 雑穀を活用した特産品開発の調査研究を行い、開発の方向性を見出すことができた。また、食と食文化に係る後継者の育成を推進することができた。
- 今後の方向性として、地域の食や食文化を首都圏への情報発信、特産品開発については、ターゲットの設定、パッケージ、価格設定などの課題を解決しながら進めていく。農家レストランを中核とした雑穀のまちとしてのブランド力を上げ、地域活性化につながる取り組みを推進していく。

## 岩手県軽米町



# 「越中の小京都」に受け継がれる城端織物の海外展開・創出事業

## 概要

城端織物の伝統の職人の技と優美な絹織物、そして、城端の風土で育った繊維産業を守り、保存し、伝承していくことが重要である。残し伝えるべき伝統の「織物文化」と時代のニーズに相応しながら新たな繊維産業として発展し、地域を活性化する「繊維産業」を本事業で取り組んでいく。

このことから、担い手の育成を目的に美大生との交流会の開催や小学生を対象とした織物文化の勉強会及び織物体験を行い、また、時代のニーズにあったこれまでにない新しいデザインを求め、デザイナーとの試作に取り組んだ。それらの作品の展示会を「表参道スパイラル」で開催し、首都圏のバイヤーにアピールした。

## 富山県南砺市

城端小学生による工場見学



金沢美術工芸大学生によるデザイン企画提案



新ブランド「JOHANAS」設立



「表参道スパイラル」での展示会



## 事業の内容

- ・伝統工芸現状調査（課題整理）
- ・機織体験の開催
- ・金沢美術工芸大学生との交流
- ・新ブランドの設立
- ・「表参道スパイラル」での展示会
- ・販売戦略の検討

### ポイント

- ◆ 担い手の育成  
→ 工場見学や機織体験を通じての学び
- ◆ 新商品開発、販路開拓  
→ デザイナー「TRUNK」との連携  
→ 「表参道スパイラル」での展示会

### 総事業費

10.1百万円

## 事業の成果

城端織物海外展開  
創出事業検討委員会

課題の洗い出し

- ・新しいニーズにあったこれまでにない新しいデザインの必要性
- ・織物文化を学び、担い手の育成

美大生との交流会

機織体験の開催

城端織物の  
現状と課題

新商品開発・製作及び  
展示会開催（東京）

- ・担い手の育成
- ・新しいデザインの伝統工芸品の誕生
- ・バイヤーへの販路開拓

今回の事業により海外展開へ近づく事が出来た。今後、フランスやシンガポールでの国際見本市に出展する。

# 農村舞台アートプロジェクト

## 概要

人形芝居用の農村舞台を核に伝統的な人形浄瑠璃に加えて、現代アートや音楽公演など新たな要素を有機的に絡め、農村舞台そのものの魅力や地域の魅力を最大限引き出し、幅広い層に対してアピール出来る事業を展開する。

徳島県那賀町



## 事業の内容

### 事業の内容

- ・4箇所の農村舞台で人形浄瑠璃公演
- ・8箇所の農村舞台を使用したアート展
- ・農村舞台を使用したコンサート
- ・有人マルシェ事業

### 総事業費

10.8百万円

### ポイント

○那賀町の文化施設である農村舞台の活用

## 事業の成果

### 農村舞台を開場に選定したことによる地域の活性化

- ①農村舞台は昔から地域と密接な関係にある場所であるため、地域との連携、協力が図りやすく、また地域としても地元の文化資源の魅力を発信できる良い機会となった。
- ②本町並びに地域に多数の来場者が訪れた事により大きな経済効果があった。
- ③農村舞台は今まであまり外部に開かれる場所ではなかったため、多くの人々は知る機会が無く、本事業を通じ多くの人々が地域を訪れ、直接農村舞台に触れ貴重な伝統文化を学ぶことができた。

# 循環型環境システム構築実証事業

## 概要

豊富な有機物資源(産業廃棄物等)を鉄触媒を用いた人工腐植化技術により循環資源として高度な利活用を図り、「循環型環境システム」の構築と農業や水産業のさらなる発達及び事業化による新たな地域活性化対策(コミュニティビジネスの展開と雇用機会の増大)を推進するものである。  
(※北海道大学工学研究院・標津町・民間研究所との共同研究)

## 事業の内容

### 事業の内容

- ヒトデ、ホタテ残渣等水産系有機廃棄物の鉄触媒人工腐植化処理による重金属含有量・溶出量の削減試験(腐植物質としての有効資源利用)
- スラリー(牛ふん尿混合物)のガス発生抑制試験(悪臭防止対策)と硝酸態窒素削減試験(水環境への負荷軽減対策・土性の改善と自給粗飼料の生産性向上)
- 大量に発生する酪農廃棄物(廃棄生乳)の人工腐植化処理による堆肥としての高度資源化(都市緑化対策、地域内活用)
- 腐植処理した水産系廃棄物による藻場礁の製造と設置試験

### 総事業費

10.3百万円

### ポイント

- 新技術(鉄触媒による人工腐植化)による基幹産業の変革と豊かな自然環境づくり
- 新たなコミュニティビジネスの展開と社会貢献

## 事業の成果

- ヒトデ、ホタテ残渣等の有害重金属含有量、溶出量の減少と腐植成分増加への最適条件が見出され、今後は事業化へ向けての精査のみとなった。
- スラリー(牛ふん尿混合液)の硝酸態窒素が大幅に低減、悪臭ガスの発生も著しく抑制され、肥料成分の固定と土壌が改善し、農業の発展とともに水域環境の改善で漁業発展にもつながる。
- 酪農から排出される「廃棄乳」を腐植化処理することにより、都市緑化、街路緑化、その他園芸用資材としての利用が可能になった。

## 北海道標津町

### 【スラリーの処理・散布】



### 【人工腐植の処理例】



原料(廃棄乳)

